

青森県経済統計報告

平成 30 年 8 月 6 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 30 年 7 月 1 日現在)..... 1

県人口 1,264,956 人 (対前月 899 人減少)	
自然動態	737 人減少 (出生者数 624 人、死亡者数 1,361 人)
社会動態	162 人減少 (転入者数 1,109 人、転出者数 1,271 人)

2 本県の経済動向 (平成 30 年 5 月・6 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは47.8と、50を下回ったものの、先行き判断DIは51.0と、2期ぶりで50を上回った。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 30 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 111.2 で、前月比 4.2%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 114.0 で、前年同月比 1.7%の上昇となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 30 年 5 月の**定期給与**は 216,509 円で前年同月比 0.8%減となった。 ... 3
総実労働時間は 151.5 時間で前年同月比 1.4%増、**所定外労働時間**は 10.5 時間で前年同月比 3.7%減となった。
・平成 30 年 6 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.27 倍で、前月と同水準となった。
- (2-3) 物 価 平成 30 年 6 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 101.4 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 0.9%の上昇となった。 ... 5
また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.5 となり、前月比 0.2%の下落、前年同月比 0.2%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 ・平成 30 年 6 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 135 億円で前年同月比 0.9%増となり、4 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月と同水準となった。 ... 6
・平成 30 年 6 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は 3,941 台で、前年同月比 7.3%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 30 年 6 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 909 千人で前年同月比 5.1%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 142 千人で前年同月比 0.2%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 ・平成 30 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 662 戸で、前年同月比 11.4%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 7
・平成 30 年 6 月の**公共工事請負額**は 161 億 4,200 万円で前年同月比 14.3%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 平成 30 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 4 件で前年同月比 100.0%増となった。負債総額は 2 億 100 万円で前年同月比 265.5%増となった。 ... 8

(3) 景気動向指数CI (平成 30 年 5 月分) 9

先行指数	127.2 (前月を 0.6 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した)
一致指数	169.4 (前月を 11.1 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した)
遅行指数	116.5 (前月を 6.9 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 30 年 7 月期) 10

3 カ月前と比べた景気現状判断DI	47.8(前期比 0.4 ポイント減、2 期連続で 50 を下回る)
3 カ月後の景気先行き判断DI	51.0(前期比 2.0 ポイント増、2 期ぶりで 50 を上回る)

1 青森県の推計人口（平成30年7月1日現在）

【概況】

平成30年7月1日現在の本県推計人口は、1,264,956人で、前月に比べ899人の減少となった。

○自然動態

出生者数が624人、死亡者数が1,361人で、737人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,109人、転出者数が1,271人で、162人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数			社会 増減数		
						出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数	
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
29. 7. 1	1,280,651	601,351	679,300	-0.063%	-810	-674	643	1,317	-136	1,193	1,329
29. 8. 1	1,279,829	601,046	678,783	-0.064%	-822	-672	651	1,323	-150	1,699	1,849
29. 9. 1	1,278,997	600,700	678,297	-0.065%	-832	-742	669	1,411	-90	1,685	1,775
29.10.1	1,278,581	600,560	678,021	-0.033%	-416	-565	721	1,286	149	1,578	1,429
29.11.1	1,277,949	600,252	677,697	-0.049%	-632	-790	712	1,502	158	1,455	1,297
29.12.1	1,277,086	599,949	677,137	-0.068%	-863	-793	649	1,442	-70	974	1,044
30. 1. 1	1,276,120	599,503	676,617	-0.076%	-966	-831	674	1,505	-135	943	1,078
30. 2. 1	1,274,940	598,945	675,995	-0.092%	-1,180	-1,062	708	1,770	-118	973	1,091
30. 3. 1	1,273,573	598,360	675,213	-0.107%	-1,367	-940	626	1,566	-427	962	1,389
30. 4. 1	1,266,893	594,944	671,949	-0.525%	-6,680	-1,003	617	1,620	-5,677	3,686	9,363
30. 5. 1	1,266,710	595,090	671,620	-0.014%	-183	-819	586	1,405	636	3,392	2,756
30. 6. 1	1,265,855	594,603	671,252	-0.067%	-855	-811	717	1,528	-44	1,369	1,413
30. 7. 1	1,264,956	594,145	670,811	-0.071%	-899	-737	624	1,361	-162	1,109	1,271

6月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		20.6	21.6	22.6	23.6	24.6	25.6	26.6	27.6	28.6	29.6	30.6
自然 動態	出生者数	862	780	879	853	692	683	711	750	689	643	624
	死亡者数	1,219	1,318	1,289	1,259	1,271	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317	1,361
	自然増減数	-357	-538	-410	-406	-579	-546	-572	-607	-641	-674	-737
社会 動態	県外からの 転入者数	1,366	1,468	1,281	1,506	1,270	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109
	県外への 転出者数	1,715	1,477	1,342	1,479	1,236	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329	1,271
	社会増減数	-349	-9	-61	27	34	-55	-194	-114	-162	-136	-162
増減数計		-706	-547	-471	-379	-545	-601	-766	-721	-803	-810	-899

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

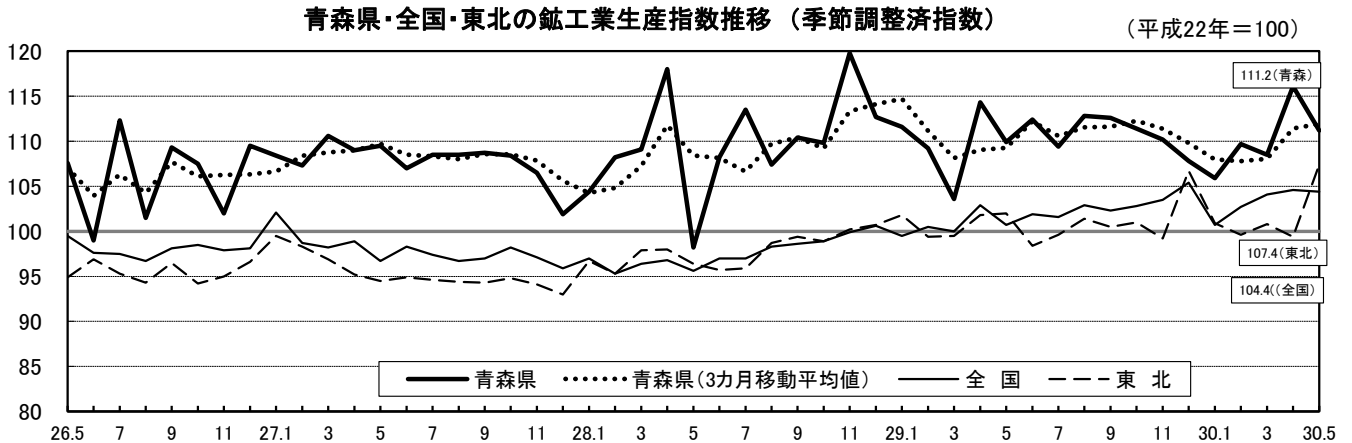
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

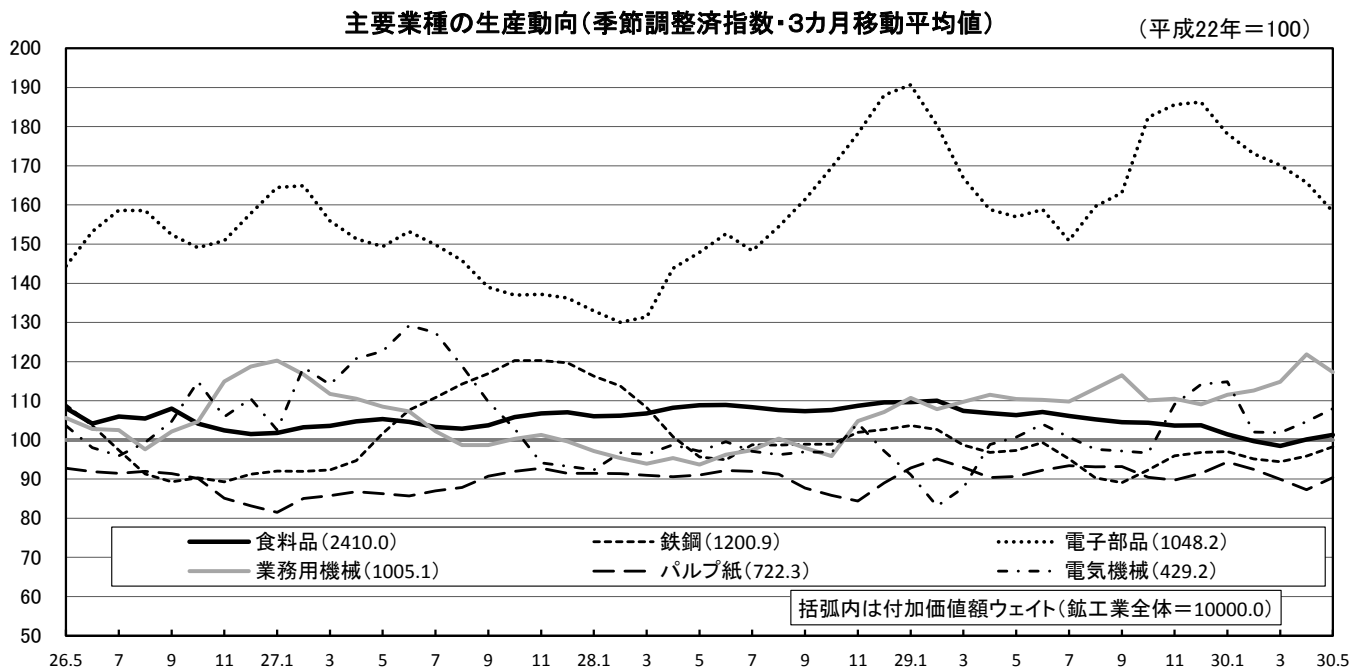
平成30年5月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が111.2で、前月比4.2%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は114.0で、前年同月比1.7%の上昇となり、4カ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、窯業・土石製品工業などが上昇に寄与した一方、業務用機械工業、電気機械工業、生産用機械工業などが低下し、鉱工業全体では4.2%の低下となった。



◎業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 -4.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
金属製品工業	38.1	468.9	業務用機械工業	-8.3	-190.7
パルプ・紙・紙加工品工業	10.7	124.8	電気機械工業	-14.9	-133.0
窯業・土石製品工業	8.0	51.6	生産用機械工業	-9.2	-125.5
情報通信機械工業	19.9	41.1	電子部品・デバイス工業	-3.6	-110.3
化学工業	3.0	25.9	輸送機械工業	-6.3	-47.6



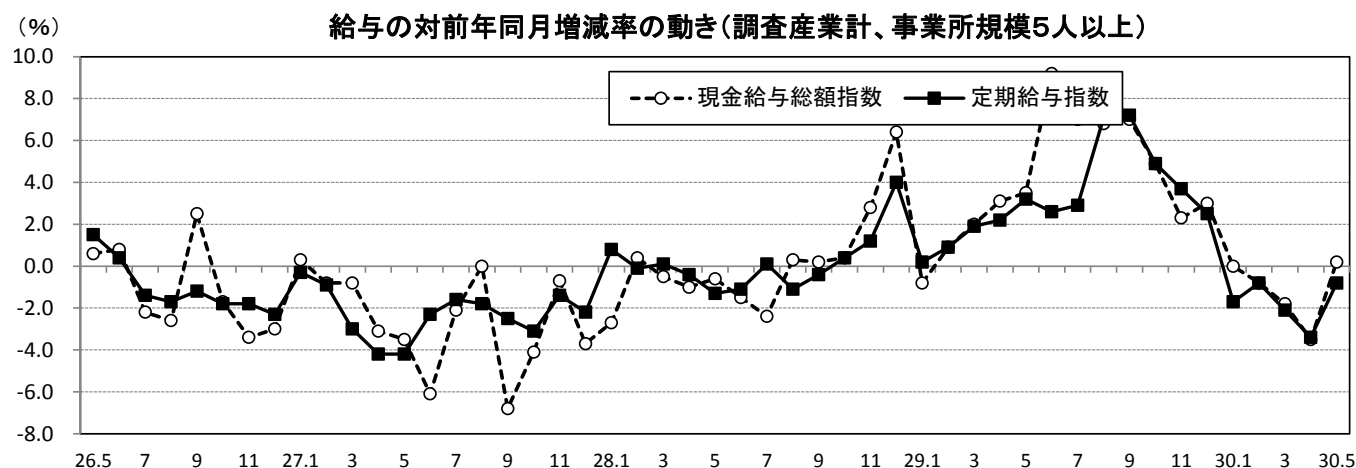
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成30年5月の定期給与は216,509円で、定期給与指数（平成27年=100）では100.2となり、前年同月比0.8%減と5カ月連続の減（現金給与総額224,782円、現金給与総額指数89.5、前年同月比0.2%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は82.3となった。

総実労働時間は151.5時間で、総実労働時間指数は98.0となり、前年同月比1.4%増と4カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は10.5時間で、所定外労働時間指数は91.3となり、前年同月比3.7%減と4カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

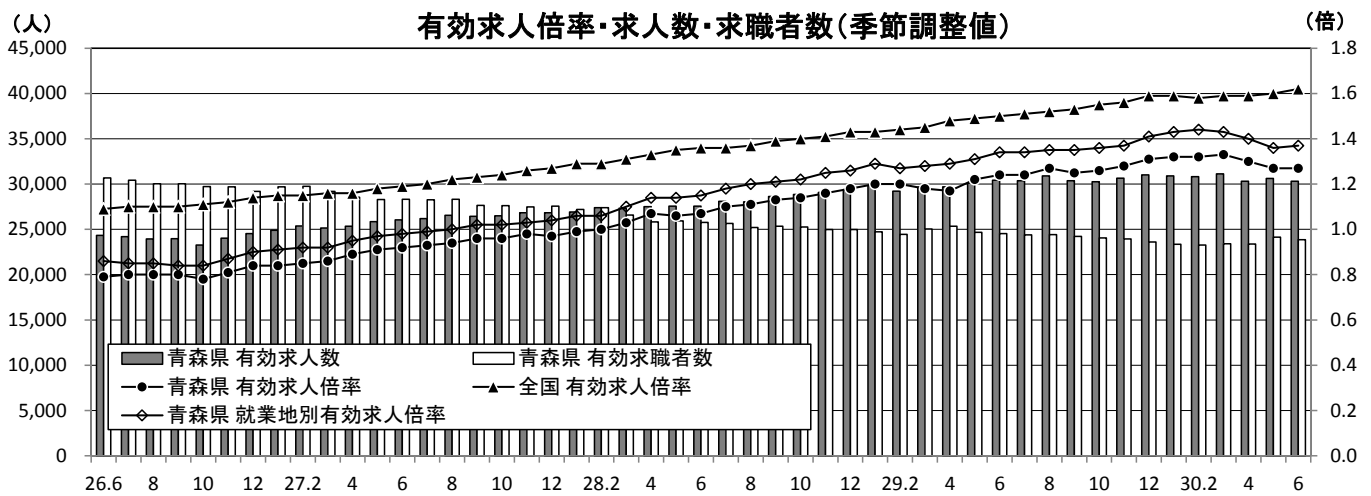
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	224,782 円	275,508 円	89.5	87.9	0.2 %	2.1 %
定期給与	216,509 円	263,179 円	100.2	101.5	-0.8 %	1.4 %
特別給与	8,273 円	12,329 円	—	—	—	18.2 %
総実労働時間	151.5 時間	140.8 時間	98.0	97.4	1.4 %	0.8 %
所定内労働時間	141.0 時間	130.1 時間	98.5	97.5	1.8 %	0.9 %
所定外労働時間	10.5 時間	10.7 時間	91.3	97.3	-3.7 %	0.9 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

(2-2-2) 有効求人倍率

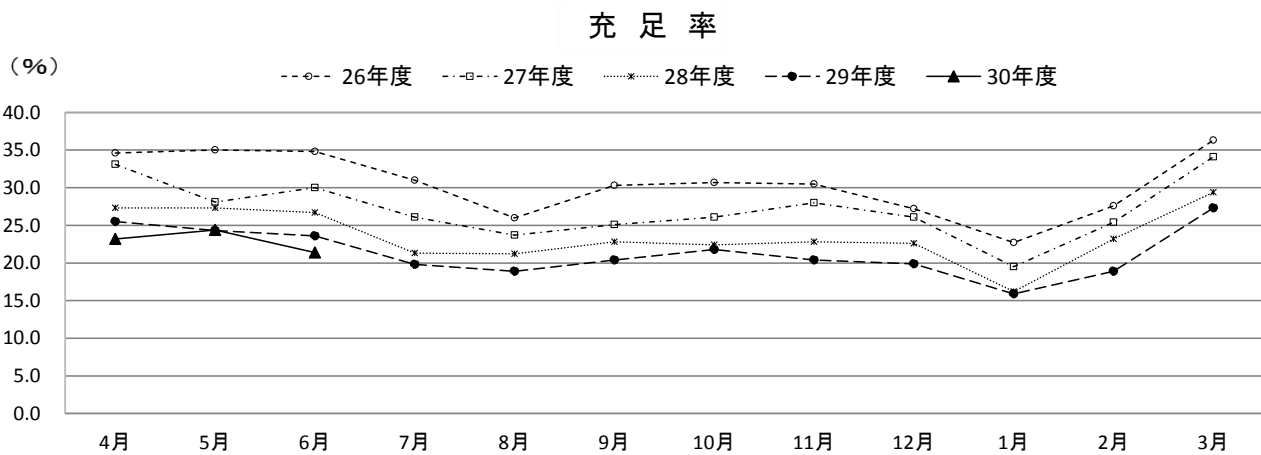
平成30年6月の有効求人倍率（季節調整値）は1.27倍で、前月と同水準となった。就業地別有効求人倍率は1.37倍で、前月を0.01ポイント上回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省職業安定局雇用政策課「一般職業紹介状況」

(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

平成30年6月の充足率は21.4%で、前年同月と比べ2.2ポイント下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率＝充足数／新規求人数

(2-3) 物価

平成30年6月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が101.4となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.9%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.0となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.3%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.5となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮魚介など)、家具・家事用品(室内装備品など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.9%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

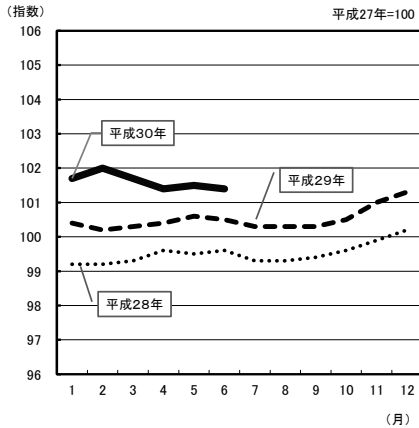


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

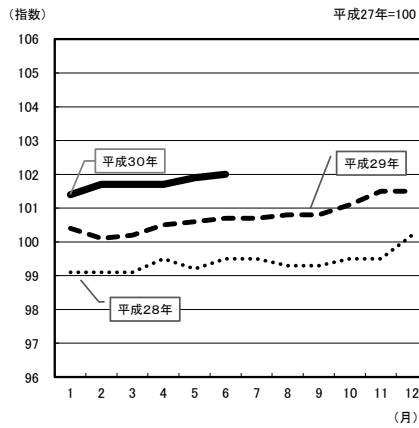
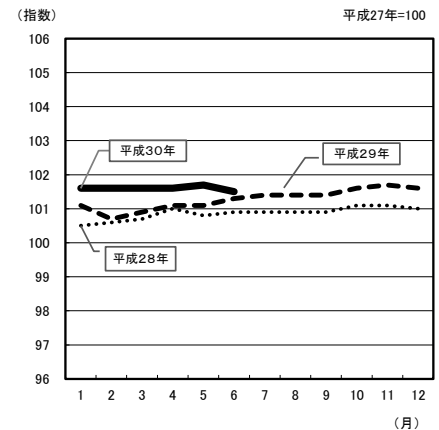


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	101.4	102.0	101.5	100.4	102.6	89.4	99.9	102.8	98.7	101.2	102.6	99.8	102.7	102.0	101.9	
前月比(%)	▲0.1	0.1	▲0.2	▲0.2	▲0.8	▲5.1	0.1	1.0	▲1.0	▲1.1	0.3	0.3	0.0	0.0	▲0.4	
寄与度	—	0.09	▲0.14	▲0.14	▲0.23	▲0.23	0.03	0.12	▲0.04	▲0.03	0.01	0.04	0.00	0.00	▲0.02	
前年同月比(%)	0.9	1.3	0.2	▲0.2	▲0.5	▲8.2	▲0.1	6.4	▲0.3	▲1.1	2.0	2.5	0.2	▲1.0	1.2	
寄与度	—	1.25	0.14	▲0.14	▲0.13	▲0.38	▲0.01	0.68	▲0.01	▲0.03	0.08	0.31	0.01	▲0.08	0.07	

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

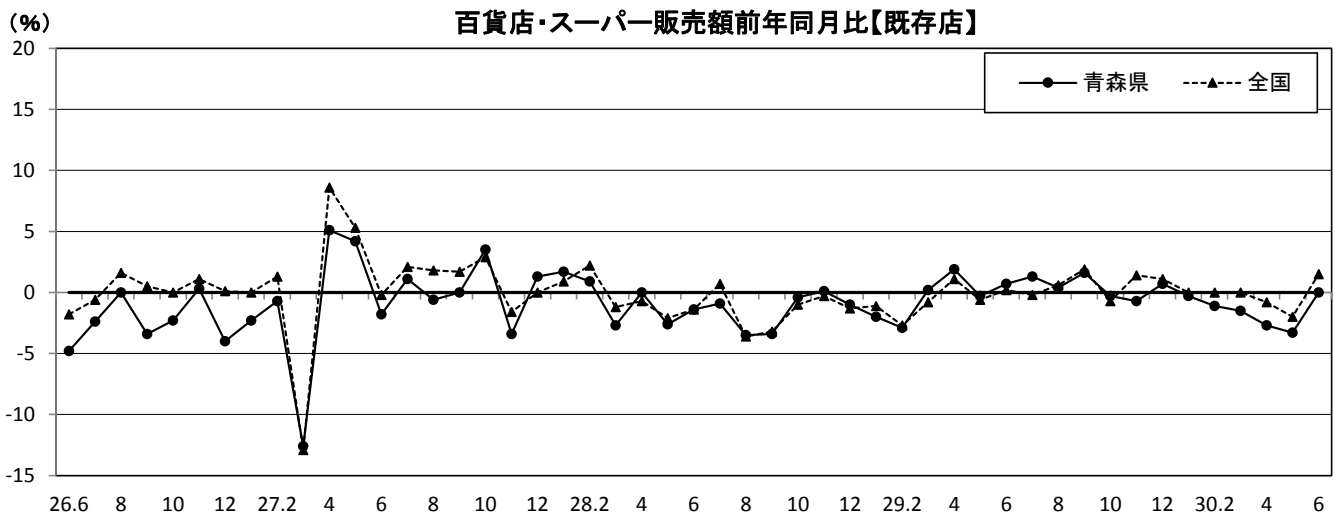
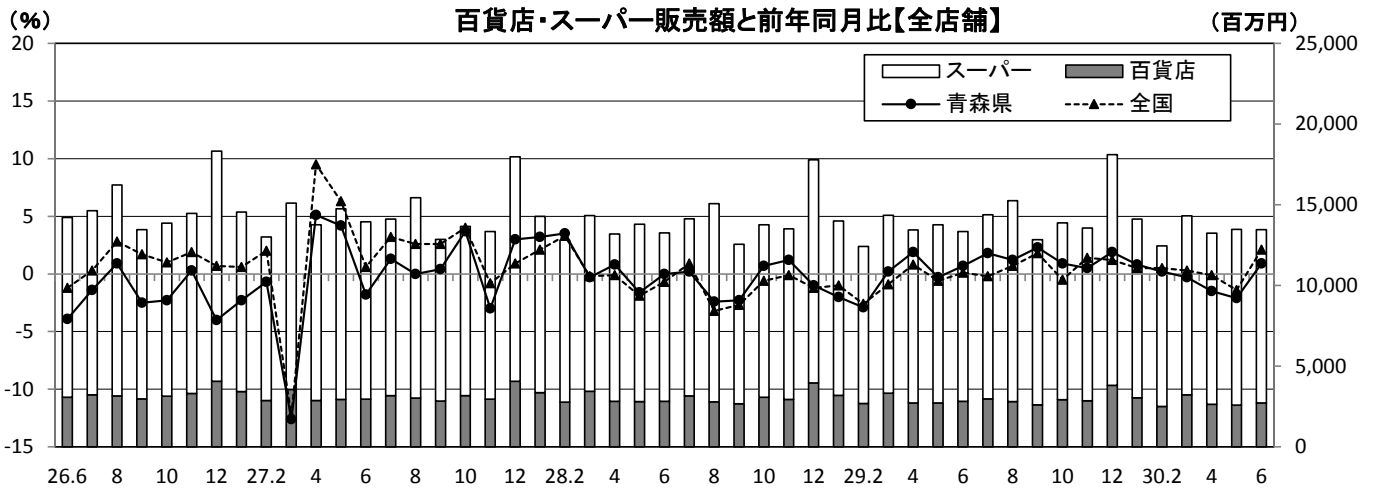
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

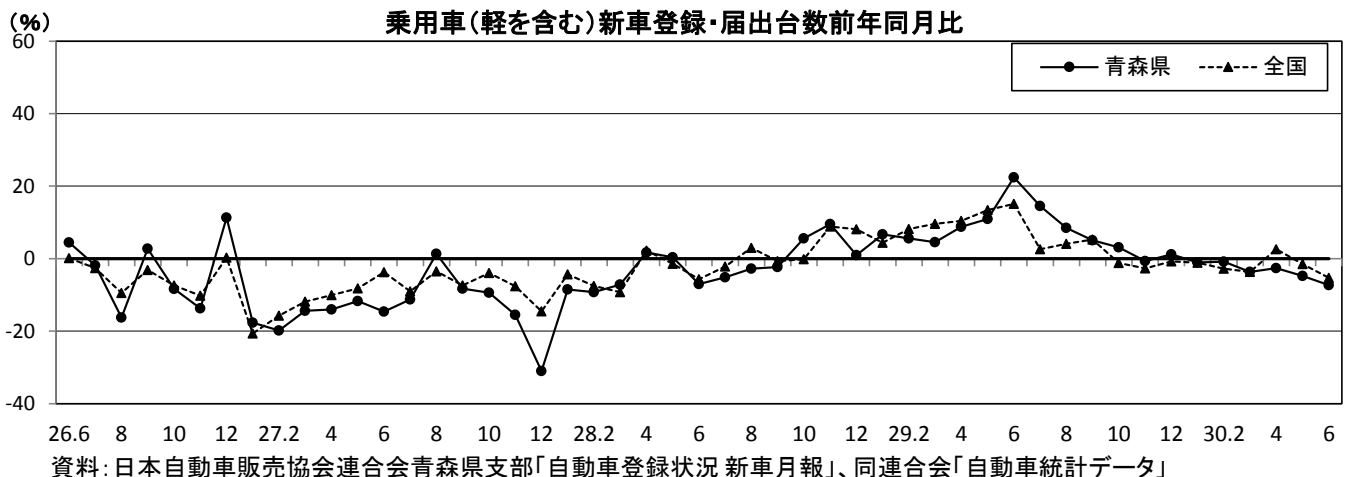
平成30年6月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが135億円で前年同月比0.9%増となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月と同水準となった。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

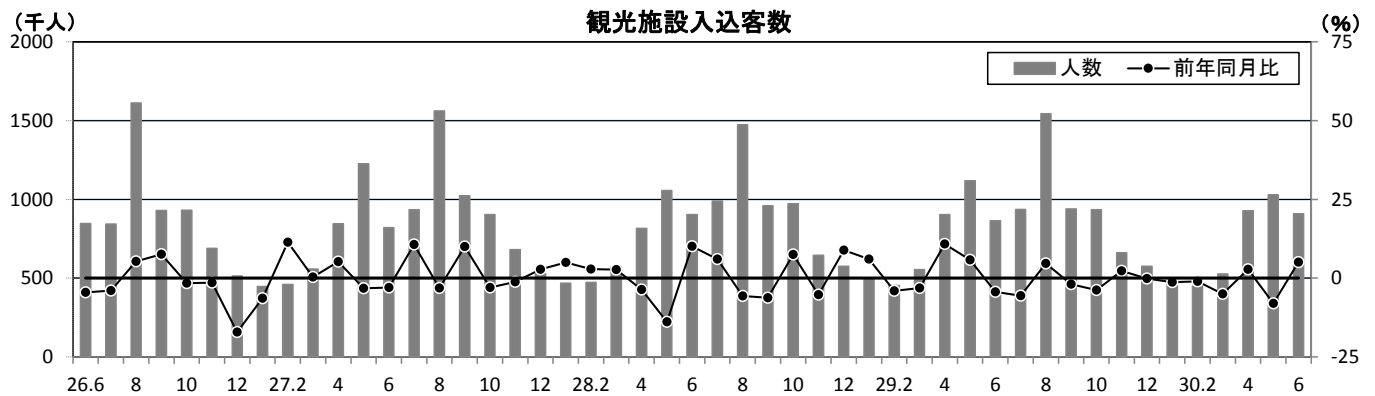
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成30年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,941台で、前年同月比7.3%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車、軽乗用車のいずれもが減少したことによる。

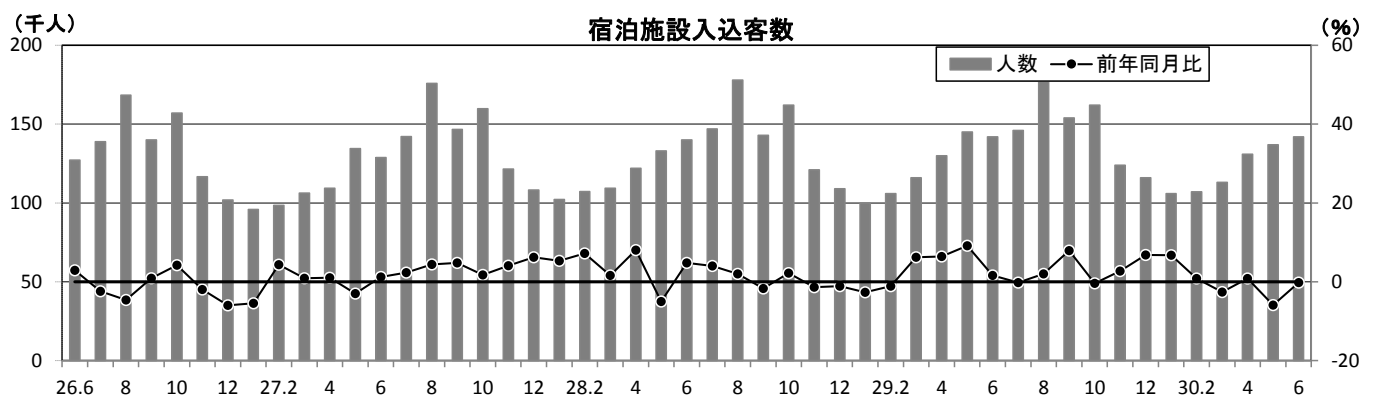


(2-4-3) 観光入込客数

平成30年6月の観光入込客数は、主な観光施設が909千人で前年同月比5.1%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は142千人で前年同月比0.2%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。観光施設は青森市、十和田市等の施設で増加し、宿泊施設は弘前市の施設で減少したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設 (H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比)

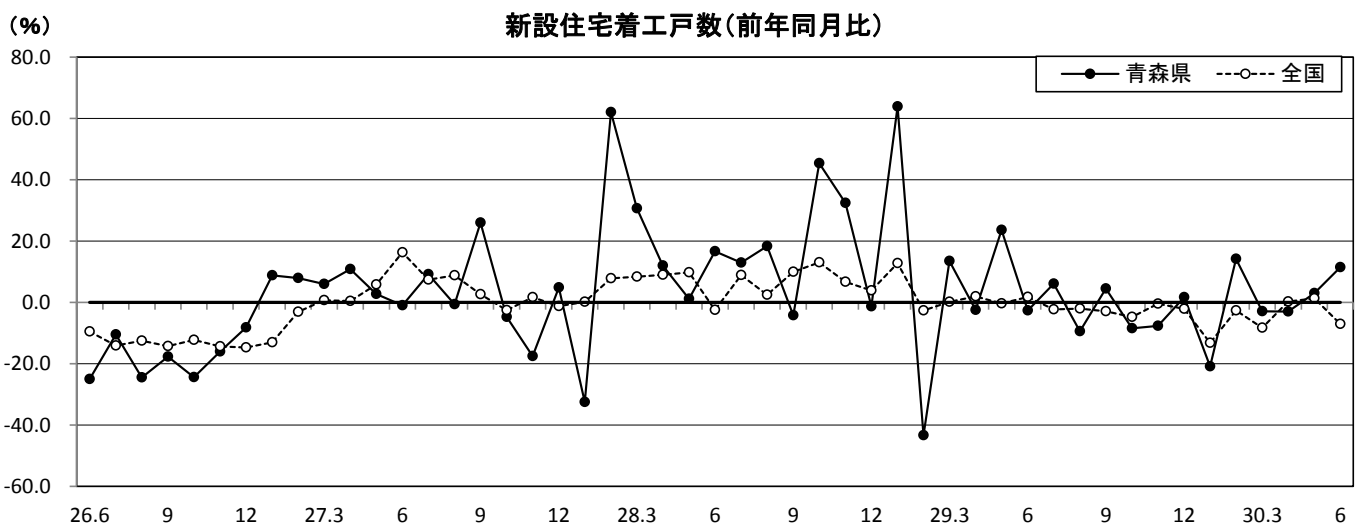


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設56施設 (H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は56施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

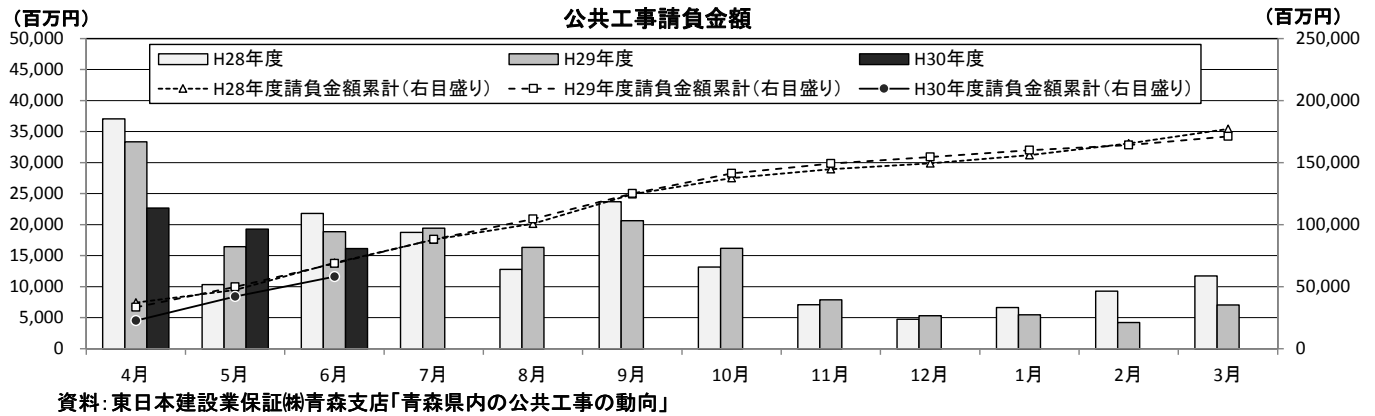
平成30年6月の新設住宅着工戸数は662戸で前年同月比11.4%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。持家、貸家、分譲住宅が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

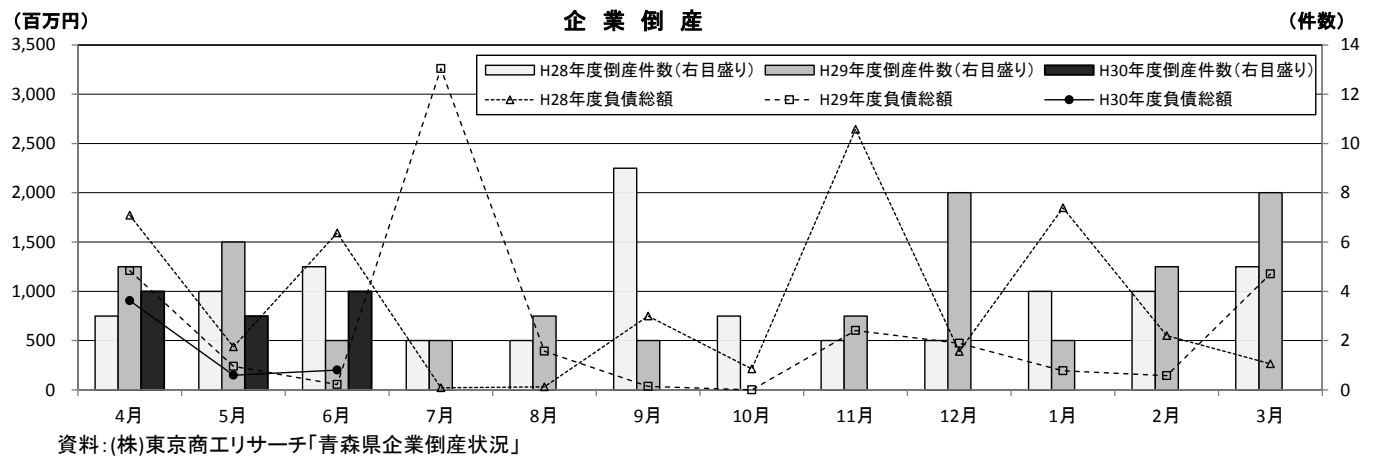
(2-5-2) 公共事業

平成30年6月の公共工事請負金額は161億4,200万円で前年同月比14.3%減となり、県、市町村などの減少により2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、平成30年6月までの累計金額は580億8,800万円で前年同期比15.4%減となった。



(2-6) 企業倒産

平成30年6月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比100.0%増となった。負債総額は2億100万円で前年同月比265.5%増となった。また、平成30年6月までの累計倒産件数は11件で前年同期比15.4%減、負債総額は12億5,400万円で前年同期比16.6%の減となった。



(3) 青森県景気動向指数

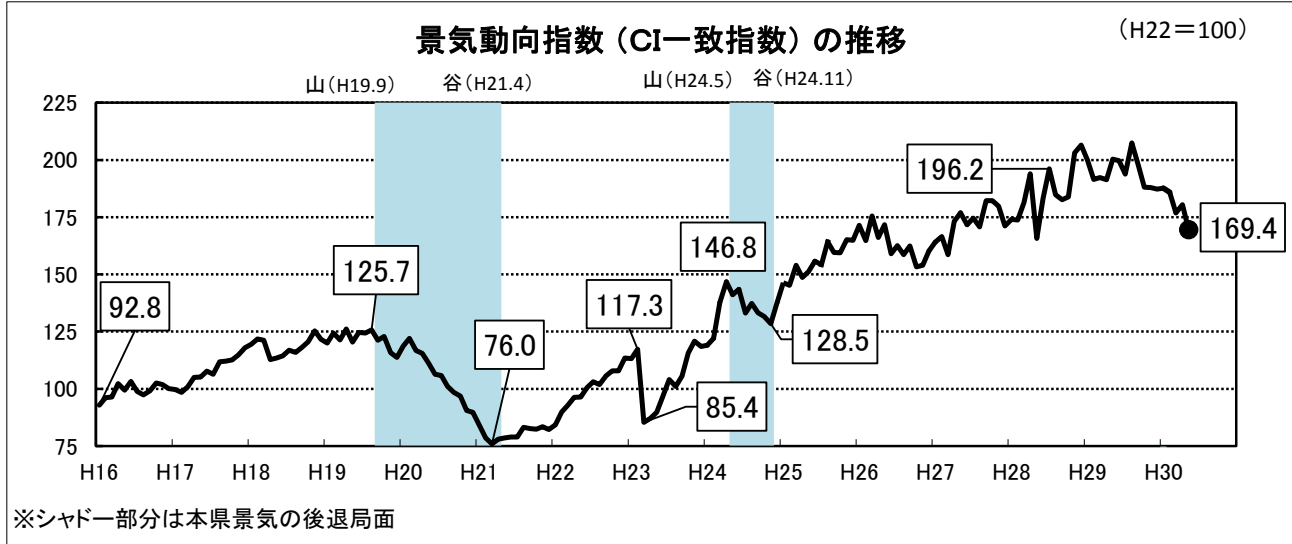
平成30年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 127.2、一致指数 169.4、遅行指数 116.5 となった。

先行指数は、前月を 0.6 ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 11.1 ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 6.9 ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

5月の一致指数は生産・消費関連の指数がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
中小企業景況DI	3.61	3カ月ぶり	建築着工床面積	-2.76	2カ月連続
企業倒産件数（逆サイクル）	1.68	3カ月連続	新規求人倍率（全数）	-2.31	3カ月連続
新設住宅着工床面積	0.01	2カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-0.62	2カ月ぶり
			日経商品指数（42種）	-0.40	2カ月ぶり
			生産財生産指数	-0.03	2カ月連続
一致系列					
輸入通関実績（八戸港）	2.62	2カ月連続	有効求人倍率（全数）	-9.39	5カ月連続
所定外労働時間指数（全産業）	2.03	2カ月連続	鉱工業生産指数	-2.33	2カ月ぶり
			旅行取扱高	-1.97	2カ月ぶり
			投資財生産指数	-1.69	2カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.41	5カ月連続
遅行系列					
公共工事請負金額	1.82	3カ月連続	県内金融機関貸出残高	-3.53	2カ月ぶり
りんご消費地市場価格	0.73	2カ月ぶり	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-3.05	2カ月ぶり
			有効求職者数（全数）	-1.44	3カ月連続
			常用雇用指数（全産業）	-1.22	3カ月連続
			青森市消費者物価指数（総合）	-0.37	3カ月連続

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	37.5%	（2カ月連続で50%を下回った）
一致指数	57.1%	（2カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	57.1%	（5カ月ぶりに50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成30年7月期）

現状判断DIは、原油価格を始めとした物価の上昇や、消費者の節約志向への懸念等により、前期比0.4ポイント減少の47.8となった。

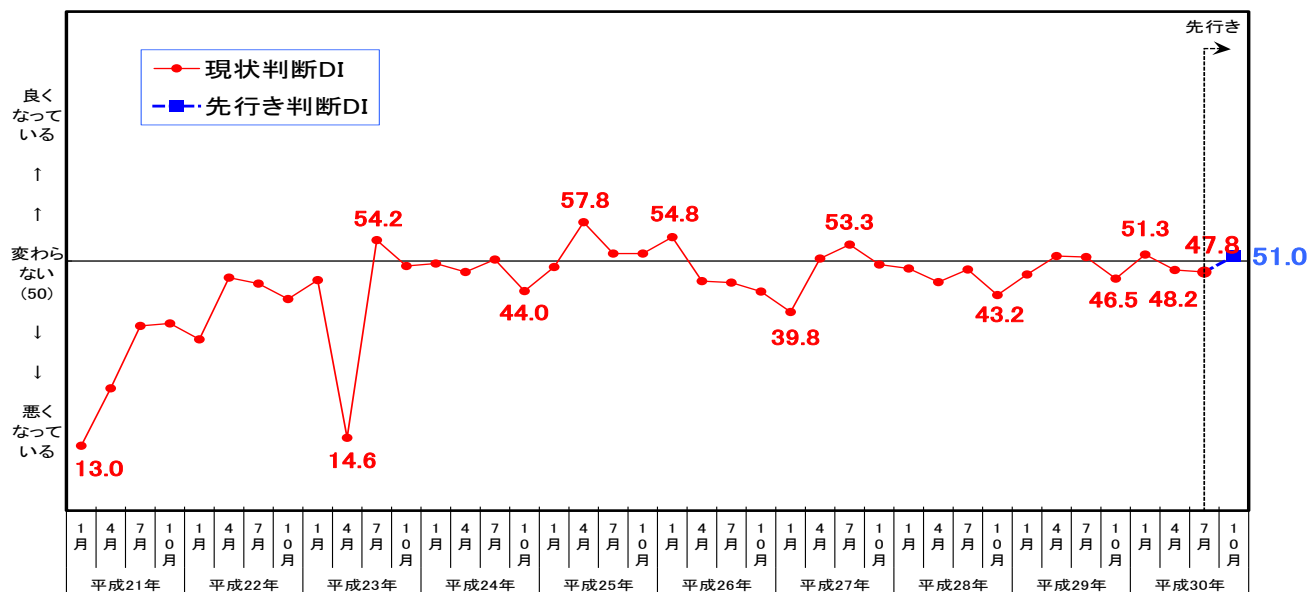
先行き判断DIは、観光客や帰省客による消費活動活発化への期待等により、現状判断DIと比べて3.2ポイント増加の51.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで上回った。

（調査期間 平成30年7月2日～7月17日 回答率100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が2.1ポイント減少、「やや良くなっている」が3.7ポイント減少、「変わらない」が10.6ポイント増加、「やや悪くなっている」が3.7ポイント減少、「悪くなっている」が1.2ポイント減少により、全体では0.4ポイント減少の47.8と、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、インバウンド客や県外観光客の増加、受注業務の増加などのプラス面がある一方で、原油価格をはじめとする物価の上昇、消費者の節約志向などといったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区及び下北地区ではポイント減、県南地区では増減なし、東青地区では増加した。DIは、東青地区では50となったが、他の3地区では50を下回った。</p>
--------	--

● 3カ月後の景気先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が1.2ポイント増加、「変わらない」が3.7ポイント増加、「やや悪くなる」が2.7ポイント減少、「悪くなる」が2.2ポイント減少により、全体では2.0ポイント増加の51.0と、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。</p> <p>判断理由では、夏の観光シーズンを迎え、観光客や帰省客による消費活動の活発化への期待等によるプラス面をあげる声があった一方で、人手不足や人件費高騰、西日本豪雨の影響による観光客の減少等を懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区ではポイントが減少したが、他の3地区では増加した。DIは、下北地区では50を下回ったが、県南地区は50となり、東青地区及び津軽地区では50を上回った。</p>
--------	---

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べて景気の現状判断理由

○	4～6月の入場者数は前年同期比104.4%。外国人の入込みは引き続き好調。(観光名所等=東青)
○	業務エリアを北東北三県に拡張した結果、新規のクライアントも増え、受注量が徐々に増加している。(設計事務所=津軽)
○	工事業者、観光客を中心に、人の動きを感じる。(商店街=県南)
○	宿泊客が増えている。(都市型ホテル=下北)
□	60歳代の雇用延長で働いている人は、給与所得が減り、購買意欲が低い。(ガソリンスタンド=東青)
□	景気変動するような要素(社会情勢/政策)が少ないため。(衣料専門店=県南)
□	日中はそれなりですが、夜は出歩く人が少なくなっている。(一般飲食店=下北)
□	「悪くはない」と感じるが、やはり建設業界の最盛期(平成7年頃)から見ると、「良い」とは言えない。(建設=東青)
□	原材料、資材、運賃等のコストアップにより、収益環境に改善が見られない。(食料品製造=県南)
□	原油価格の高騰(ガソリン高)で物価高になり、消費にブレーキがかかっているのでは。(新聞社求人広告=津軽)
△	景気が現在ほぼ底辺近くにあつて、そこから更に微妙に悪化している様に見える。日常の食料品からガソリン等の燃料の高騰で、必要最低限以上の消費が進まず、青森市の中でお金が回っていない様に見えるため。(タクシー=東青)
△	ガソリン価格は、ピークは過ぎたものの高値安定で、全ての配送費がコスト高になっていくのは避けられない。(一般小売店=県南)
△	将来に対する不安からか、お金の使い方がシビアである。(コンビニ=下北)
△	何となく財布のひもが固いような気がします。ドラッグストアの相次ぐ開店で、そちらへお客様が流れているのか?向かいのドラッグストアも、駐車台数が減っている感じがします。(一般小売店=下北)
×	天候の不順による農家への影響や、県外客からのキャンセルがあった。(一般飲食店=津軽)
×	八戸市の中心街へ足を運ぶ人の数が減っている。建設中の「マチニワ」に期待したい。(レストラン=県南)

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	W杯の人気により、連帯感ができたので、人間同士の交流活性化を大いに期待している。(美容院=県南)
○	お祭りの季節になってきて、他県の人や、海外のお客様も増えてきているため。(コンビニ=東青)
○	受託業務遂行のため、活発な経済活動に連動。(設計事務所=東青)
○	毎年そうだが、祭り等のイベントがあるので、人手が多くなり、客数が伸びるはず。また、天候も寄与してくる。(一般飲食店=県南)
○	インバウンド増加による観光振興に期待。(広告・デザイン=東青)
□	市役所のアウガへの移転や、今後の会議所移転、新ホテルの開業などで、駅前エリアだけの人の動きは活発になると思われるが、他のエリアの人が駅前集まるだけで、その他のエリアの実質的な荒廃分を考えれば、人口減少も進む中、青森市全体の景気は、そう簡単には良くならないと思われるため。(タクシー=東青)
□	賃金と原材料(仕入れコスト)は上がっているが、適切な販売価格転嫁が難しい。(都市型ホテル=津軽)
□	天候不順で、食品・飲料等の売れ行きが厳しそうなのがする。(コンビニ=県南)
□	宿泊客は増加しているものの、宴会等は相変わらず低調。(都市型ホテル=下北)
□	人手不足があり、これ以上経済拡大の速度を上げられそうにない。都会などの有名高級ホテルでも人手に困っており、地方の製造業も生産拡大は難しい。(電気機械製造=県南)
□	一部の都市(東京や仙台)に、仕事(富)と労働力が集中し過ぎです。若年層の薄い地方都市は、活気も薄くなりがちです。(経営コンサルタント=県南)
□	好材料はないが、夏の行楽・観光に期待したい。(新聞社求人広告=津軽)
△	予約状況は例年並みであるが、仕入れ価格の上昇や、人員確保のための人件費の増加が見込まれ、収益を圧迫している。(都市型ホテル=東青)
△	西日本の豪雨で、これまでにないインフラ(交通網・河川)設備の整備が急務だ。(一般小売店=県南)
△	7～8月に観光客・帰省客を中心に繁忙期を迎えるが、カレンダーの曜日の並びが、あまり良くない。(食料品製造=下北)
×	物価の値上げが相次ぐため、商品の値上げをするしかない。安さとボリュームを売りにしているので、値上げをすると、お客様が足を運んでくれるか不安である。(レストラン=県南)
×	中国・関西の豪雨の影響で、観光客が昨年よりも減少する。(一般飲食店=津軽)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」